

序

わが経済同友会は、創立以来すでに十年を經過した。回顧すれば一瞬時のようでもあるが、また思えば民族がはじめての試煉を受けた時期であり、国の運命を決する重要な時期でもあつた。この間われわれは、創立当初の理想と情熱とを持ち続け、経済の復興に、旧套の脱皮に、全力を傾けて來たのである。このことは、比較的若くして有能なメンバーを擁し、かつ個々の利害関係にとらわれない組織になつている同友会において、はじめて可能であると云つても、敢て過言ではあるまい。事実同友会の考え方は、各方面において重視せられ、それと共に会は急速に發展するに至つた。経済界においては、非常に強力な存在となつたが、それだけにわれわれの責任も重くなつたと云わねばならない。発足當時を想起して、実に感慨無量なるものがある。

最近の世界の情勢は、また騒がしくなつて來た。わが国はなかなかむづかしい地位に置かれてゐる。若し一步を誤るならば、真に取返しのかぬ事態に陥る恐れなしとしない。われわれは過去のかがやかしい足跡に、ほこりを感じると共に、将来に向つてさらに使命の重大なることを痛

感すべきであると思う。一言同志の決意を促し、以て十年史発刊の辞にかえたい。

なお末尾乍ら経済同友会十年史の編纂に当り本篇の執筆を煩わした羽間乙彦氏に深甚の謝意を表する次第である。

工藤 昭 四 郎

刊行のことば

歴史の記録は、単にその間の時代の流れを伝えるにとどまらない。多くの示唆と教訓を含み、人はこれによつて将来の指針と智慧を学びとることができるのである。

この意味で今回、敗戦後のわが国経済の再建と民主化を目指して、これを推進してきた経済同友会の過去十年間の歩みが編纂されたことはまことに意義深い。

しかもこの十年間の歩みは、かりに再び繰返しがあつたにしても、改めてやり直すことは恐らくない先人の実践であるだけに、正しい資料にもとづいた本書は実に貴重な文献といわなければならない。

今、日本経済は復興経済から競争発展の経済へと、新たな転換期に当面し、新しい経済理念の確立が要請されている。

われわれ経済人はこの要請に応え、世界経済の中にあつて日本経済の進路を誤らないようにしなければならぬ。これには経済団体の活動に負うところが大きい。経済同友会が今後いかなる

方向を目指し、いかに運営され、いかに実践するかは、したがって日本経済の帰趨を決定するといつても過言ではあるまい。

われわれは歴史に学んで歴史を超え、そしてわれわれの負託に答えようと思う。本書こそはわれわれにとつてまたとなき好伴侶であらう。

私は編纂の労に深く敬意を表するとともに日本経済再建の一里標として江湖にも本書をおすすめし度い。

刊行を祝して

経済同友会が本年を以て十年の歴史を經過し、茲に十年史の編纂をみることとなつたのは洵に喜ばしいことである。顧みれば十年の昔、戦禍の尙生々しき間から期せずして生れ出た経済同友会が今日の如く発展し、又斯くも社会的影響を持つ団体に迄成長したことは或意味では予想外とも考えられるのである。

然らば何が経済同友会十ヶ年の発展を築いたのであるうか。之を知らんと欲するならばこの十年史に俟つことが最も必要であろうが、この十年史は戦後に生立つた経済同友会という構想と団結の一つの組織の成長と活動の興味ある歴史を色々の意味で我々の前に展開し我々に教えて呉れるであらうと信ずる。

然しながら、この会が創立された時に打ち建てられた組織の基本方針や運営の精神が今日の発展に深い関係を持ち、経済同友会としての独自の立場を創造しえたことは特に注意すべき点であると思う。勿論其後の環境や又更に今後の推移に従つて常に若返りを行うべきは当然であるが、

所謂創業時代の本来の姿こそは之を将来の爲充分銘記せねばならぬと信ずる。又之と共に經濟同友会が汎く有爲なる會員を多数集めえて、又優秀なる多くの指導者を輩出したことはこの会の爲に大いなる幸であつたと共に、國家の爲にも慶賀に堪えない処である。

自分は經濟同友会創立当時からの關係者の一人として、この会が今後益々其の使命を果して更に一段の發展を成就せんことを心から願うものである。それには小成に安んずることなく大いに自重し、一時の場を急ぐことなきを祈つて已まない。茲に聊か感想を記して序文とする次第である。

歷代代表幹事

及
以
常
任
幹
事



諸井 貫一 (21)
秩父セメント取締役社長



堀田 庄三 (22)
住友銀行取締役頭取



故大塚 万丈 (22)



永野 重雄 (23・24)
富士製鉄取締役社長



浅尾新甫 (25)
日本郵船取締役社長



藤山愛一郎 (26)
日東化学工業取締役社長



山際正道 (27・28・29)
日本輸出入銀行総裁



東海林武雄 (27・28・29)
旭電化工業取締役社長



工 藤 昭四郎 (23・24・25・26・30・現)
東京都民銀行取締役頭取



岸 道 三 (30・現)
日本道路公団総裁



常任幹事 郷 司 浩 平 (創立～現)

(註) 数字は在任年度
役職は現職